

マドリッド絵文書
(ファクシミリ版)

*Códice Tro-Cortesiano : cuyo original se encuentra en el Museo de América de Madrid /
Cesar Olmos Pieri, editor -- Madrid : Testimonio , 1991*
(神奈川大学図書館 所蔵)

CONTENTS

- 特集 「太古のロマンに想いを馳せる」 2頁
- 2018年 横浜図書館 展示報告 4頁
- 視聴覚資料室から Vol.3 「デザイナーの工夫が光る！LPジャケットの世界」 5頁
- 洋書を読んでみませんか？ 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介 「失われたマヤの知-マドリッド絵文書 15世紀」 7頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 8頁

我々はどこから来たのか… 太古のロマンに想いを馳せる

今年の夏、東京国立博物館で開催された「縄文」展にはたくさんの来場者がつめかけ、力強く、強烈な存在感を持つ展示の数々に多くの人が魅了されたようです。我々は、生物が存在すらしなかった太古の姿を今なお残している雄大な自然や、まだ文字もなかった時代の造形になぜ惹きつけられてしまうのでしょうか。図書館には太古の魅力を伝える資料がたくさんあります。その一部を紹介します。

◆ 縄文美術館 / 小川忠博写真；小野正文，堤隆監修 東京：平凡社，2013

日本列島の人々が土で器や偶像を作り始めたのは約1万6000年前からと言われる。本書では550点以上の「作品」の写真と解説が収録されている。

請求記号：B210.2-723（横浜）
702.12-2（平塚）



◆ 人類と芸術の300万年：デズモンド・モリス アートするサル 東京：柘風舎，2015



300万年前、人間の顔に似た小石を大切に持っていた猿人がいた。この小石は「マカパンスガットの小石」と名付けられ、世界最古のアート作品と言われている。我々の祖先は太古の時代から視覚的アートに魅了され親しんできたようだ。先史時代から現代までの視覚アートをベストセラー『裸のサル』の動物行動学者が解説する。

請求記号：B702-347（横浜）
702-15（平塚）

先史時代の手形

◆ Prehistoric painting, Lascaux or the birth of art / text by Georges Bataille ; translated by Austryn Wainhouse -- Geneva : Skira, 1955

ジョルジュ・バタイユによるテキストのラスコー洞窟の画集。ラスコーはフランスのドルドーニュ地方にある洞窟遺跡。後期旧石器時代終末期の約2万年前に洞窟内に描かれた100点以上もの動物の絵が1940年、地元の少年達によって偶然発見された。

請求記号：A708-1-9（横浜）

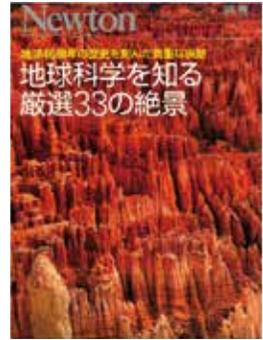


◆ **地球科学を知る厳選 33 の絶景：地球 46 億年の歴史を刻んだ貴重な痕跡**

東京：ニュートンプレス，2014

46 億年前に誕生してから現代に至るまで、地球がこれまでに経てきた数々の試練は雄大な自然の姿として残されている。人間の存在など取るに足りないものと思わせるその風景は美しく、畏怖を感じさせる。

請求記号：B450.9-30 (横浜)



◆ **世界の大遺跡 1：先史の世界 / 木村重信編著；大村正子執筆；**

木村重信ほか撮影 — 東京：講談社，1987

イギリスのストーンヘンジやウクライナのマンモスの骨の家からイースター島のモアイまで、先史時代に人類が造った巨大な建造物を紹介する。

請求記号：B202-1-36 (横浜)

209.2-1-1 (平塚)



◆ **リアルサイズ古生物図鑑：古生物のサイズが実感できる！ / 土屋健著**

東京：技術評論社，2018

古生物を日常のシーンや日用品に並べてみることで、そのスケールが実感できる本。写真左下はカンブリア紀に生息していた“アイシェアア”という最も原始的な動物群といわれる有爪動物。右下で生八ツ橋に添えられているのは“ワリセロプス”という三葉虫類。気持ち悪くて楽しい本。

請求記号：B457-1-153 (横浜)



2018年 横浜図書館 展示報告

横浜図書館の1F展示コーナーでは、一定のテーマのもとに数世紀前の貴重資料や普段は目にすることのないめずらしい資料を紹介しています。今年は図書館の資料だけでなく、英語英文学科の卒業研究も展示コーナーで紹介しました。2018年に行った図書館展示を振り返ります。



「物語の標本展」 (会期：2018年1月11日-1月26日)

「おとぎ話とイギリス文学」を研究する英語英文学科村井教授のゼミ生12名がそれぞれの卒業論文のテーマをもとに、物語の重要なモチーフを視覚的に表すコラージュを制作・展示しました。

「平成史 part1」 (会期：2018年3月23日-5月31日)

平成という時代は、2019年4月30日に終わりを告げ、新たな元号に変わります。日本が様々な事件や災害に見舞われ、世界でも大きな変化と試練に直面したこの時代を、今回は part1 として平成元年から平成15年まで、所蔵資料で振り返りました。2019年4月には part2 の展示を開催します。



「青の風景」 (会期：2018年6月7日-7月11日)

目にも涼しく美しい「青」をテーマに、ギリシアの青い空や死海の神秘的な青、キリスト教美術の「聖なる青」、歌舞伎の隈取の「悪の青」など、様々な「青」を絵画集や写真集などの所蔵資料で展示しました。



「宇宙とデブリ (宇宙のゴミ?)」 (会期：2018年7月14日-9月20日)

工学部 宇宙エレベータープロジェクト (江上研究室) 主催

宇宙デブリ (Space Debris) とは、主に宇宙空間に漂っている役目を終えた人工衛星やロケットの一部、金属片などのことを意味し、事故の原因になるため、その除去が必要とされています。展示ではこの「宇宙デブリ」の紹介とともに、人工衛星や宇宙ステーション輸送機「こうのとり」で実際に用いられている部材なども紹介しました。

「人と動物」 (会期：2018年9月26日-10月23日)

人と動物の関わりは古く、様々な記録や図像の中には、人が動物に感じてきた畏敬の念や親愛の情が残されています。絵画や写真、18世紀の哲学書やマヤ文明の絵文書など、人と動物の関わりをあらわす資料を紹介しました。



※図書館では2019年も様々な展示を開催する予定です。

デザイナーの工夫が光る - LP ジャケットの世界

近年 LP レコードの人気の復活しています。その魅力の一つは、直径 30 cm のレコード盤を収めるジャケットのデザインにあります。そのデザインには名作とされるものも数多くあり、中には工夫を凝らした珍しい仕様の LP ジャケットも作られました。今回はその一部を所蔵資料で紹介します。

ヴェルヴェット・アンダーグラウンド・アンド・ニコ 1967 年（請求記号：R5D-112）



バナナ・アルバムと呼ばれる有名な作品。本作はバンドのデビュー作で、アンディ・ウォーホルによるプロデュース。ジャケットもウォーホルのデザイン。バナナの絵はステッカーになっていて、はがすとバナナの実が現れる。



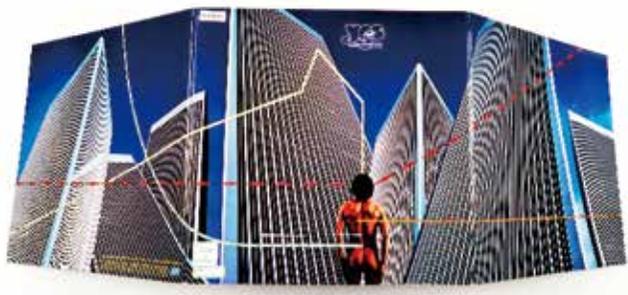
“PEEL SLOWLY AND SEE”
利用者の皆さんが剥がそうとした跡が残っている。

恐怖の頭脳改革 / エマーソン・レイク&パーマー 1973 年（請求記号：R5C-113）



ELP（エマーソン・レイク&パーマー）は、イギリスのプロGRESSIV・ロックバンド。頭蓋骨串刺しの不気味なジャケットは真ん中で開けるようになっており、開くと女性の顔が現れる。イラストは映画『エイリアン』シリーズのデザイナー、H.R.ギーガーによる。

究極 / イエス 1977 年（請求記号：R5D-10）



YES（イエス）はイギリスのプロGRESSIV・ロックバンド。ジャケットデザインはピンク・フロイドの「原子心母」ほか、多くの名盤のジャケットを手がけたイギリスのデザイングループ“Hipgnosis”（ヒプノシス）によるもの。三面開きのジャケットは開くと 1 m 近くになる。

洋書を読んでみませんか？

神奈川大学図書館では日本語、中国語、ハングル以外の言語で書かれた本を「洋書」としています。洋書はその大部分が利用者の皆さんの目に触れにくい地下書庫などに配架されており、専門的な研究のための資料が多い傾向がありますが、一般的な内容の洋書もたくさん所蔵しています。

その一部を紹介します。

1.

1. Homo deus : a brief history of tomorrow / Yuval Noah Harari, c2017

ベストセラー『サピエンス全史』の著者が人類の未来を预言する話題の本『ホモ・デウス：テクノロジーとサピエンスの未来』のアメリカ版。
請求記号：A209-20



2. Empire of cotton : a global history / Sven Beckert, 2014

帝国主義、奴隷労働、機械生産…現代の資本主義の起源を綿産業の歴史を通して物語る。

請求記号：A348.8-176

3. You cannot be serious! : The graphic guide to tennis / Mark Hodgkinson, 2018

タイトルは伝説のテニスプレイヤー、ジョン・マッケンローの「名言」(?)から。テニスとテニスプレイヤーに関するあらゆるエピソードやデータを収録。

請求記号：A783-58

4. Last Stories / William Trevor, 2018

2016年に惜しくも亡くなったアイルランドの作家、“短編の名手”トレヴァーの短編小説集。

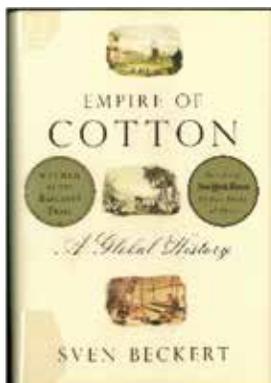
請求記号：A933-3909

5. Orwell on truth / George Orwell ; introduction by Adam Hochschild, 2018

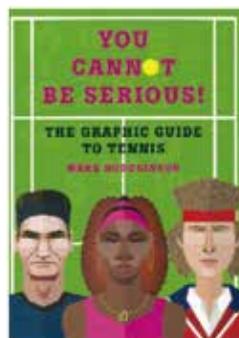
最近『1984』が再注目されたオーウェル。現在のアメリカの状況を意識した序文と、真実や権力に関して書かれたオーウェルの作品からの抜粋やエッセイ、書簡などが収録されている。

請求記号：A934-540

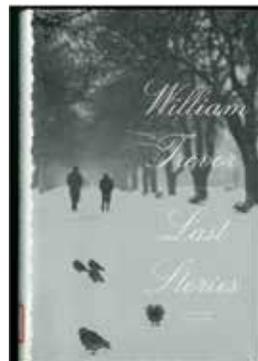
2.



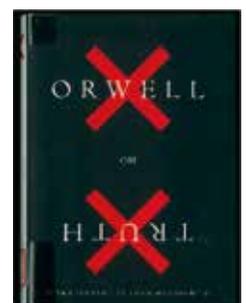
3.



4.



5.

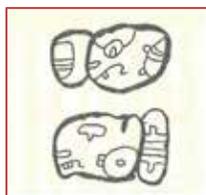


失われたマヤの知 『マドリッド絵文書』15世紀（ファクシミリ版）

マヤ文明は、現在のホンジュラス、エルサルバドル、ベリーズ、グアテマラ、メキシコの五か国にかかる地域で栄えた文明である。「9世紀に突如消滅した謎の文明」などと言われることもあるが、実際にはスペイン人によって破壊された16世紀まで発展し続けた。鉄器を一切使用しない石器文明で巨大な神殿ピラミッドを建設し、天文学、暦、文字などを発達させた。その時代区分は、先古典期（紀元前2000年～西暦300年頃）、古典期（300年～900年頃）、後古典期（900年～1500年頃）に分けられる。その遺跡、チチェン・イツァは、現在、世界中から人々が訪れる人気の観光スポットになっている。



チチェン・イツァ遺跡



マヤ文字

マヤ文明は、独特の文字を持っていた。それらは全部で4万～5万字があると言われ、それぞれの文字は漢字の部首に相当する「文字素」を組み合わせる非常に複雑な文字である。古典期マヤ社会の大部分を占めた農民は読み書きができず、文字は支配層だけが使う宮廷言語であった可能性が高く、農民との差異を正当化する役割を持っていたとも考えられる。マヤ文字と絵が記された絵文書は“マヤ・コデックス”と呼ばれ、現存するマヤ・コデックスは後古典期のマヤ書記や貴族が古典期の絵文書を書き写したものである。イチジク科の木の樹皮から製造した紙をアコーディオンのように折りたたみにした形で、表と裏の両面に絵と文字が書き込まれている。

本学が所蔵する『マドリッド絵文書』（ファクシミリ版）は“Tro-Corteciano Codex（トロ＝コルテス絵文書）”とも呼ばれ、『トロ絵文書』と『コルテス絵文書』という二つの絵文書が、実は分割されてしまった一つの絵文書であったことが分かったものである。15世紀にユカタン半島で写本され、長さは全長6.82メートル、現存するマヤ・コデックスの中で最長のものと言われている。その内容は260日暦の日付、宗教儀式、狩りや種まき、養蜂などの諸活動について、両面にほとんど余白のない程、絵と文字がぎっしり記されている。

マヤ・コデックスは、マヤの地域に暮らした人々の高度な文明の記録であった。しかし16世紀にスペイン宣教師によって「悪魔の仕業」とされ、ほとんどが焼き払われてしまった。残されたのは現在『ドレスデン絵文書』『マドリッド絵文書』、『パリ絵文書』、『グロリア絵文書』と呼ばれる4点のみである。焼き払われた他の絵文書とそこに記されていた知の世界は、永遠に消滅してしまったのである。

（資料サービス課 荏原直子）

Códice Tro-Corteciano : cuyo original se encuentra en el Museo de América de

Madrid / Cesar Olmos Pieri, editor -- Madrid : Testimonio , 1991



請求記号：A256-171（貴重資料庫）

図書館からののお知らせ

横浜・平塚共通

■冬季長期貸出について

対 象……学部生
貸出受付期間……2018年12月3日(月)～12月26日(木)
返却期限日……2019年1月11日(金)
冊 数……10冊

■春季長期貸出について

対 象……学部生(卒年次生)
貸出受付期間……2019年1月21日(月)～3月4日(月)
返却期限日……2019年3月19日(火)
冊 数……10冊

対 象……学部生(在校生)
貸出受付期間……2019年1月21日(月)～3月23日(土)
返却期限日……2019年4月8日(月)
冊 数……10冊

■年末年始の休館日について

期 間……2018年12月27日(木)～2019年1月4日(金)

■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期 間……2019年1月7日(月)～1月28日(月)

編集後記

進化論の古典的著作、C.ダーウィンの『種の起源』が出版される50年前、進化論を体系的に述べた最初の著作といわれる『動物哲学』が出版された。著者はJ.B.ラマルク(1744-1829)、フランスの博物学者、進化学者である。

ラマルクは、生物の器官は使用されることによって発達し、使われない器官は次第に衰えて消滅するという「用不用説」や、生物が環境の影響によって形質を得るという「獲得形質」などの学説によって知られている。しかし著名な博物学者キュビエに執拗に攻撃されるなど、ラマルクの存命中にその仕事が認められることはなかった。生涯地道に研究を続けたが、失意のうちに亡くなったと言われている。だが、後になってその発想は進化論の発展において重要な位置を占めるようになり、その学説を認める立場としての「ラマルキズム」という言葉も残っている。

「巨人の肩の上に立つ」という言葉がある。それまでに積み重ねられた先人の仕事のおかげで、今、新たな発見や進歩が可能になっているという意味の言葉である。人はともすれば「巨人」の存在を忘れ、自分達が世界を作り上げたと思ってしまう。また、そこに含まれた失意のうちに去った人々や無名の人々の膨大な仕事に目を向けることを忘れがちである。時には先人の積み上げた仕事を、考えなしに一掃してしまうことすらある。しかし、後になってラマルクの仕事に注目した人々がおそらく感じたように、自分が立つ足の下に巨人の肩を感じる時が来るのかもしれない。

図書館にはラマルクもダーウィンもキュビエの著書も所蔵している。図書館に来れば「巨人の肩」の大きさを感じることができる。

(N.E.)

今号の表紙



『マドリッド絵文書』(ファクシミリ版)

Códice Tro-Cortesiano : cuyo original se encuentra en el Museo de América de Madrid / Cesar Olmos Pieri, editor -- Madrid : Testimonio , 1991

請求記号 : A256-171 (貴重資料庫)

“マヤ・コデックス”と呼ばれる、15世紀に作られたマヤ文明の絵文書。詳しくは7頁「図書館所蔵資料の紹介」に解説あり。